

スポーツ・武道実践科学系

氏 名 たけ なか けん たろう 竹 中 健太郎 准教授



主な研究テーマ

☐ 「現代剣道の技術的研究」

剣道の歴史文化、特性を踏まえた、現代剣道の効果的な指導法及び稽古法の研究。

平成26年度の研究内容とその成果

現代の剣道は、武術として日本刀での剣術から、時代の変遷を経て竹刀、防具の開発により竹刀で打突し合うに至り、武道としての道を歩み進んできました。これまでにこの歴史ある武道の一つである剣道について、「足捌き」「姿勢」「間合」など競技者と指導者の両面の立場から競技力向上に向けた技術的研究をすすめてきました。また近年は、学校現場における剣道授業において、限られた時間内で効率的に打突動作を習得する指導方法について、工夫を加えた指導による事例を蓄積し、その指導効果について実践的な検証を行っています。

これからの研究の展望

26年度に引き続き、指導現場や剣道実践者にダイレクトに還元できる研究を行っていきたいと考えます。特に、中学校での武道の必修化に伴い「剣道の授業における効率的な指導法」について、指導に工夫を加え、その指導効果について実践的に検証する研究に力を注ぎたいと考えています。打突と踏み込みの動作の一致、上肢と下肢の

動作の協調に着目し、初心者指導において、より早期の段階で打突と踏み込みのタイミングを一致させるための訓練方法、指導方法を提示したいと思っています。

一方で、本学は武道課程を有する体育大学ですので、我々は技術向上への研究や取り組みと並行して、武道の特性を踏まえた本質的な剣道を次世代に継承する使命も忘れてはならない立場にあります。昨今の剣道は、国内はもちろん、世界規模での剣道大会（試合）の隆盛による競技化が進む一方で、武道としての剣道の特性が失われることへの懸念の声が後を絶ちません。したがって、今後は技術的研究にとどまらず、剣道の歴史的背景や精神性を踏まえた剣道の本質的な修錬（上達論）と現代剣道の技術（勝負論）との融合、連結を示唆するための研究をすすめ、伝統文化としての剣道の普及と伝承に貢献していきたいと考えています。